

<論述問題>

※論述問題においては、固有名詞をひらがな表記にしても構いません。

1. 指宿の自然概況

[問題]

指宿市の火山地形は、きわめて特徴的な姿を示している。その概況について、次の4つの語句を使い、250字程度で説明しなさい。

- ① 噴火活動を始めた開聞岳
- ② 池田湖を中心に南東へほぼ直線的に並ぶ
- ③ 火山学者の松本唯一博士
- ④ 火山の博物館

【模範解答】

196文字

指宿市には、縄文時代の後期に噴火活動を始めた開聞岳を筆頭に数多くの火山地形が残っている。池田湖を中心に、南東へほぼ直線的に並ぶ、松ヶ窪・池底・鰻池・成川・山川港である。これらは約5700年前に形成された火口群である。

火山学者の松本唯一博士によれば、市域の大半が約10万5000年から11万年前に噴火した、阿多カルデラの中に含まれているという。これはまさに火山の博物館だといっている。

2. 指宿の産業

〔問題〕

1970年代の2度のオイルショック後、火山地域にある豊富な地熱に注目が集まった。これを日本の新たなエネルギー源として見直そうという動きがあった。

鹿児島県では、霧島と南薩摩地域が調査対象地に選ばれたが、この結果、出来たのが「山川地熱発電所」である。

この「山川地熱発電所」について、下記の4つの語句を使い、250字程度で説明しなさい。

- ① 営業開始年
- ② 井戸の数・深さ
- ③ 出力
- ④ 立地

【模範解答】

223文字

山川地熱発電所は平成7年に営業を開始した。

九州では、大分の大岳発電所、八丁原発電所に次いで3番目、全国では7番目に設置された事業用地熱発電所である。

国内の地熱発電所のほとんどは、山間部の高地にあるが、山川発電所は海拔43mの低地にあるのが特徴。

蒸気を出すための12本の井戸がある。最も深いものは、2100m、浅いものでも1800mもある。発電出力は3万KW。

1軒の家庭で平均3KW使うとすれば、1万世帯の家庭の電気がまかなえる計算だという。

3. 指宿の経済

〔問題〕

昭和11年、鹿児島市と山川町間に、鉄道「指宿線」が開通した。

指宿駅の開業は、昭和9年12月19日である。この時、今和泉・宮ヶ浜・二月田駅も同時に開設された。当時、宮ヶ浜駅は、日本で一番海に近い駅であった。

昭和38年に山川―枕崎間が開通し、それまで「指宿線」であった路線名も、「指宿枕崎線」に改められた。

現在は、鹿児島中央駅と指宿駅間を、観光特急「指宿のたまて箱」が走っている。

この観光特急「指宿のたまて箱」（愛称「いぶたま」）について、下記の4つの語句・内容を含めて、250字程度で説明しなさい。

- ① 九州新幹線鹿児島ルートの特多―指宿間の最短運行時間
- ② デザイン、車体の特徴
- ③ 乗降口上部の仕掛け
- ④ ネーミングの由来

【模範解答】

295文字

平成23年3月、指宿駅の開業から76年、ついに九州新幹線鹿児島ルートが全線開通、特多―指宿間は最短で2時間14分に短縮された。これに伴って、翌日から「指宿のたまて箱」の運行が始まった。

車内にはふんだんに木が使われ、座席の多くは海側の景色がよく見えるように配置され、錦江湾に面した側が、クリームがかった白、反対側が黒というデザイン。玉手箱を開けた浦島太郎の髪が黒から白になった物語をイメージしている。また、乗降口上部からは煙に見立てた霧が噴き出す仕掛けがある。

「指宿のたまて箱」というネーミングは、長崎鼻の竜宮伝説や枚聞神社の通称「玉手箱」と呼ばれる室町時代の化粧箱にちなんでつけられた。

<記述問題>

4. 指宿の歴史

[問題]

以下は、近世指宿についての歴史的説明文である。文中の空欄を埋めなさい。

- [1] 天正15(1587)年、穎娃郷清見で、**農民反乱または一揆** が起き、領主 穎娃久虎が鎮圧に向かった。しかし、その途中で落馬し、それが原因で死亡した。息子の久音が家督を継いだ。突然谷山に所領を変えられ、それ以降、指宿・穎娃・山川は島津氏の直轄地となった。
- [2] 山川港の重要性から、文禄元(1592)年に、揖宿郡から福元村・成川村を分離して、一郷としての山川郷がつくられた。その後、**穎娃郡** から大山村と岡見ヶ水を分離して、山川郷に編入している。
- [3] 延享元(1744)年、藩主 島津継豊の命により、弟 **忠郷** に和泉家を継がせ、今和泉島津家が成立。これが、家臣団最上の「一門家」という家柄の一つである。
- [4] 天保年間(1830～1843)財政難にあえぐ薩摩藩を支えたのは、指宿の **海商たち** だった。彼らは山川港を中心に、黒砂糖貿易や禁制品の海産物・昆布等の貿易で莫大な資金を稼いでいた。
- [5] 幕末期の船主と総反帆数をまとめた資料によると、指宿の濱崎太平次は170反帆、黒岩藤一郎は56反帆、山川の **河野覚兵衛** は32反帆、勢左衛門は51反帆等の名がみえる。

5. 指宿の文化

〔問題〕

指宿の文化について、各問の文中にあてはまる語句を埋めなさい。

〔1〕明治元年、政府から神仏分離令が出された。これは、江戸時代まで国教的立場にあった仏教と神社を分離するというものである。薩摩藩では、これが廃仏毀釈にまで発展し、寺が打ち壊され、仏像や仏宝などが焼かれ、藩内1066寺院すべてが廃寺となった。

指宿でも、枚聞神社に隣接してあった **端応院** や、山川の正龍寺、指宿の長勝院をはじめ、由緒ある寺院がことごとく無くなった。

〔2〕指宿にやってきた3人の文人墨客が詠んだ歌が摺ヶ浜の施設に設置されている。

「白波の 下に熱砂の隠さるる 不思議に逢えり 指宿に来て」

与謝野 晶子

「なぎさにも 湧きいづる湯の音すれど 潮満ちたりかくろひゆくも」

斎藤 茂吉

「畑掘ればいでゆき畑にわき 磯掘ればいそにもわきいづる指宿の里」

菊池 幽芳

この有名な施設名は、**砂むし会館砂楽** である。

〔3〕成川地区では、旧暦5月5日に、無病息災を願う悪疫よけの行事がかつては広く行なわれていた。数年前までは、鰻地区でも行なわれていたが、これは藁人形やヤツデ、餅などを吊るした網を、集落の入口の道路を横切るように張り、集落の外に向かって小石を投げる伝統行事である。この悪疫よけの行事の名前は、**トツノモツツイ** である。

〔4〕薩摩が生んだ幕末の豪商に第8代濱崎太平次がいる。その頌徳碑が、昭和7年6月15日に、翁の70年忌に建てられたが、この場所は **稻荷神社** である。

〔5〕明治6年10月、「征韓論」論争に敗れた西郷隆盛は、下野し、古郷に私学校や吉野開墾社を設立し、山野で狩猟、温泉湯治、読書瞑想の日々を過ごしていた。明治7年2月中旬、従者2人と猟犬13頭を引き連れ、突然鰻温泉へ湯治に来た。そこへ、佐賀の乱に敗れた **江藤新平** が西郷の決起を促すためにやって来た。しかし、会談は不調に終わった。